

◆お知らせ 同窓会、戦友会など各種会合の呼び掛けをこの欄で紹介しします。はがきに開催場所、日時、連絡先など必要事項を明記のうえ、福島民友新聞社「人社会面」係か最寄りの支社、支局にお寄せ下さい。

ひと社会面

アマ天文家が 自前の観測所



5年がかかり手作り

首都圏に住むアマチュア天文家たちによる手づくりの天文観測所が、いわき市田町の山中に完成した。「いわき天体観測所」がそれ。星に魅せられた仲間たちが五年がかりで造り上げた。快晴となった五、六日、観測会と開所式が催された。



世話人の田中さん

メンバーは、東京都世田谷区で設計事務所を経営する田中政明さん(三三)を世話人とする二十人。二十四歳から五十一歳までで、会社員、教員、自営業、主婦と職業もさまざま。愛好家たちが「自前の観測所を持つ」という夢に集

ま、土地探しから始まった。観測所は「光害」のない所が前提条件。加えて、晴天率の高さ、近距離であることなどが挙げられる。一年半かけて、関東圏を中心にくまなく調査、東京から三時間半で来れる標高七五〇以上のこの地が選ばれた。

用地交渉の後、五十八年から建設工事に入り、週末や夏、冬休みの連休を利用しての作業が始まった。五年目で本造りが完成した。台所なども付いており、十人ほどが寝泊まり



アマチュア天文家たちの夢が実って完成した観測所

できる立派なもの。観測所となる二階部分はスライド式で屋根が開閉でき、中には十四等星まで見える三十センチニュートン式反射望遠鏡をはじめ、観測機器五台が設置されている。同観測所は六十年から、二階部分だけの使用を開始して

いたが、メンバーの一人、埼玉の教員市村義美さん(三三)が新しい星「市村すい星」を発見する快挙も遂げている。小学四、五年生のとき、図書館で見た星座の本がきっかけで天文に興味を持ったという田中さん。「星はもろもろ、を観測、宇宙へ思いを自然がいっぱいの田舎で、都

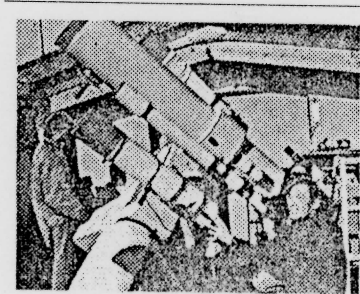


◆：東京や埼玉に住む天文愛好家二十人が協力して、福島県いわき市郊外の山中(標高七五〇)に五年がかりで建設を進めてきた「いわき天体観測所」の写真が完成、六日、開所式が行われた。

◆：メンバーは、東京都世田谷区の設計事務所経営

田中政明さん(三三)をはじめ、主婦や教員、会社員たち。「澄んだ夜空の下で星を見つめたい」という思いから、敷地や基礎工事は自分たちで行うなか、まさに手づくりの観測所。

◆：設備も開閉自在のスライド屋根に、全国でも珍しい三十センチニュートン式反射望遠鏡など計五台の望遠鏡を取り付け、寝泊まりもできる本格的なもの。費用はメンバーが出し合い、完成までに



かかったという。一部使用を開始した昨年暮れには新しい星の発見もしており、本格的な活動のスタートとなる開所を、メンバー一人ひとりが心待ちにしていた。